

(様式第1号別添1)

計画作成年度	令和4年度
計画主体	伊勢市

作成 令和5年1月10日  
第 回変更 令和 年 月 日

# 伊勢市鳥獣被害防止計画

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・アライグマ・ハクビシ
計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 7 年度
対象地域	伊勢市

※ 農林水産業等に係る被害の原因となっている鳥獣であって、市町長が早急にその被害を防止するための対策を講じるべきと判断した鳥獣種(以下「対象鳥獣」という。)を記入する

※ 計画期間は3年程度とする

※ 対象地域欄には、単独又は共同で被害防止計画を作成する市町名を記入する

2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針

(1)被害の現状 (令和 3 年度)

①農業被害の現状				
対象鳥獣	被害面積(a)	被害量(kg)	被害金額(千円)	農作物名
ニホンジカ	565	30,492	5,998	<input checked="" type="checkbox"/> 稲 <input type="checkbox"/> 麦類 <input type="checkbox"/> 豆類 <input type="checkbox"/> 雑穀 <input checked="" type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 飼料作物 <input checked="" type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> いも類 <input type="checkbox"/> 工芸作物 <input type="checkbox"/> その他( )
イノシシ	62	3,207	590	<input checked="" type="checkbox"/> 稲 <input checked="" type="checkbox"/> 麦類 <input type="checkbox"/> 豆類 <input type="checkbox"/> 雑穀 <input checked="" type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 飼料作物 <input checked="" type="checkbox"/> 野菜 <input checked="" type="checkbox"/> いも類 <input type="checkbox"/> 工芸作物 <input type="checkbox"/> その他( )
ニホンザル	796	44,684	7,993	<input checked="" type="checkbox"/> 稲 <input type="checkbox"/> 麦類 <input type="checkbox"/> 豆類 <input type="checkbox"/> 雑穀 <input checked="" type="checkbox"/> 果樹 <input checked="" type="checkbox"/> 飼料作物 <input type="checkbox"/> 野菜 <input checked="" type="checkbox"/> いも類 <input type="checkbox"/> 工芸作物 <input type="checkbox"/> その他( )

②林業被害の現状			
対象鳥獣	樹種(人・天・苗・竹の別)	被害面積(a)	被害金額(千円)

③水産業被害の現状(カワウ)		備考
被害量(kg)	被害金額(千円)	

※ ②③については、被害軽減目標を立て、被害軽減の達成を図る場合に記入する

(2)被害の傾向

対象鳥獣	被害傾向
ニホンジカ	沼木・宮本・四郷・高麗広地区を中心に、水稻、野菜類等農作物全般への被害が発生しているが、減少傾向にある。協議会の事業により侵入防止柵を設置した箇所については被害を防ぐことができている。
イノシシ	春先から水稻及び柿の収穫期となる秋口まで被害が多く、沼木・宮本・四郷・二見・小俣・高麗広地区を中心に市内の広い範囲にわたって被害が見受けられる。協議会の事業により侵入防止柵を設置した箇所については被害を防ぐことができている。
ニホンザル	沼木・宮本・高麗広を中心に、年間を通じ水稻・野菜・果樹等農産物全般に対し被害が発生している。宮本地区の一部では、地域が一体となった追払い活動や捕獲頭数の増加により被害は軽減されたが依然出没している状況にある。協議会の事業により、ワイヤーメッシュ柵と電気柵を複合させた侵入防止柵を設置した箇所については被害を防ぐことができている。

アライグマ	年間を通じて市内の広い範囲にわたって目撃がある。生活圏内で出没するため、糞害や家庭菜園及び飼育されているペットへの被害が見受けられる。市で所有する捕獲檻を市民へ貸し出し、有害捕獲許可を行うことにより対応を行っているが、目撃情報及び被害は増加している傾向にある。
ハクビシン	年間を通じて市内の広い範囲にわたって目撃がある。生活圏内で出没するため、糞害や家庭菜園への被害が見受けられる。市で所有する捕獲檻を市民へ貸し出し、有害捕獲許可を行うことにより対応を行っているが、目撃情報及び被害は増加している傾向にある。

※ 集落代表者アンケート結果および獣害情報マップから考察される、被害の発生時期、被害の発生場所、被害の現状や傾向を記述する

### (3)被害の軽減目標 (令和 7 年度)

①農業被害の軽減目標			
対象鳥獣	被害面積(a)	被害量(kg)	被害金額(千円)
ニホンジカ	510	27,518	5,413
イノシシ	56	2,894	532
ニホンザル	718	40,326	7,214

②林業被害の軽減目標			
対象鳥獣	樹種(人・天・苗・竹の別)	被害面積(a)	被害金額(千円)
ニホンジカ			
イノシシ			

③水産業被害の軽減目標(カワウ)	
被害量(kg)	被害金額(千円)

※ ①～③に関し、2-(1)の対象鳥獣のうち、被害対策の実施可能な鳥獣について、目標年度における被害目標値を記入する

※ ②③については、被害軽減目標を立て、被害軽減の達成を図る場合に記入する

④被害の軽減目標の考え方	
ニホンジカ	侵入防止柵の整備は、農業被害の大きかった地区では概ね完了しており、今後、未整備地区でも整備を進めていくとともに、これらの周辺での捕獲を強化していくことで、被害を軽減し、現状の被害より約9%減少を見込んだ。
イノシシ	侵入防止柵の整備は、農業被害の大きかった地区では概ね完了しており、今後、未整備地区でも整備を進めていくとともに、これらの周辺での捕獲を強化していくことで、被害を軽減し、現状の被害より約9%減少を見込んだ。
ニホンザル	追払い活動を継続するとともに、捕獲活動を強化していく。また、大型捕獲檻を活用した効果的な捕獲方法を検討し、捕獲実績を上げていくこととし、約9%減少を目標とした。

※ 2-(1)被害の現状と2-(2)被害の傾向を踏まえ、対象鳥獣ごとの被害の軽減目標の考え方を記入する

(4) 従来講じてきた被害防止対策と課題

① 従来講じてきた被害防止対策					
種類	対策の有無	種類	対策の有無	種類	対策の有無
捕獲体制の整備	○	捕獲機材の導入	○	侵入防止柵の設置	○
緩衝帯の設置		追い上げ(追い払い)活動	○	放任果樹の除去	
被害防止技術・知識の普及	○	集落ぐるみの取組の推進	○	ニホンザルの遊動域調査	○
その他( )					

※ 直近3力年(平成24～26年)で実施した被害防止対策について、実施している対策に「○」を記入する

② 捕獲体制の整備と課題					
捕獲体制の整備実績と課題					
名称	設置年月日	任期(年)	隊員数(人)	活動内容	
実施隊(対象鳥獣捕獲員)	年 月 日				
市町捕獲隊(梅田班)	平成25年6月17日	—	10	前山周辺での捕獲活動、神宮林での捕獲活動(市に設定された捕獲隊として捕獲活動を実施)	
市町捕獲隊(長岡班)	平成26年7月10日	—	5	高麗広周辺での捕獲活動、神宮林での捕獲活動(市に認定された捕獲隊として捕獲活動を実施)	
市町捕獲隊(中村班)	平成27年7月1日	—	15	二見町での捕獲活動、神宮林での捕獲活動(市に認定された捕獲隊として捕獲活動を実施)	
集落捕獲隊(池田班)	平成26年4月1日	—	16	旭町、藤里町周辺の捕獲活動(市に認定された捕獲隊として捕獲活動を実施)	
課題	今後、狩猟者の高齢化及び減少が懸念される。				

※ 被害防止計画策定時における捕獲体制を記入する

※ 各捕獲隊の設置年月日、任期、隊員数、活動内容を記入する

※ 活動内容には隊名を記入する

※ 実施隊欄には、実施隊が対象鳥獣捕獲員となっている場合のみ記入する

※ 課題欄には、現状の捕獲体制の課題について記入する(上記の捕獲隊が整備されていない場合も記入する)

③ 捕獲機材の導入実績および課題					
捕獲機材の導入実績					
わなの種類	数量(基)	わなの種類	数量(基)	わなの種類	数量(基)
捕獲檻(ニホンジカ)	0	くくりわな	0	大型捕獲檻(ニホンザル)	2
捕獲檻(イノシシ)	0	ドロップネット	0	ICT機器(ホカクラウド)	1
捕獲檻(兼用)	63	囲いわな(兼用)	0	ICT機器( )	0
捕獲檻(ニホンザル)	37	囲いわな(ニホンザル)	0	その他( )	0
小動物用捕獲檻	15	大型捕獲檻(兼用)	0	その他( )	0
課題	大型捕獲檻(ニホンザル)については、年によって捕獲数にムラがある。今後も餌の置き方等効果的な捕獲の方法を検討しながら、捕獲実績をあげていく必要がある。				

※ 被害防止計画策定時点における捕獲機材の導入実績を記入する

※ 課題欄には、捕獲機材の捕獲実績、稼働状況及び管理体制などについて現状の課題を記述する

④侵入防止柵の設置実績と課題		
柵の種類	延長(m)	課題
WM柵	33,343	集落に設置した柵については、概ね効果が出ている。管理については、見回り、草刈り等を集落全体または役員が行っているところが多い。 受益者の高齢化が懸念されるため、今後も継続的に維持管理ができるよう体制の維持が必要。
金網柵	2,810	
電気柵	16,470	
複合柵(WM柵+電気柵)	5,316	
複合柵(金網柵+電気柵)	135	
その他( )		

※ 被害防止計画策定時における侵入防止柵の種類別の整備延長の実績を記入する

※ 侵入防止柵設置実績内訳(様式第1号別添1参考様式を参照)を添付すること

※ 課題欄には、侵入防止柵の整備実績と集落代表者アンケート結果Q3およびQ4から、柵の効果と維持管理状況を踏まえ、現状の課題を記述する

※ 既存の金網柵やWM柵にかさ上げ等で多重種対応柵として機能向上を行った場合は、既存柵延長と複合柵延長を二重計上しないこと

⑤緩衝帯の設置実績と課題	
設置延長(m)	課題

※ 被害防止計画策定時における緩衝帯の設置実績を記入する

※ 緩衝帯設置実績内訳(様式第1号別添1参考様式を参照)を添付すること

※ 課題欄には、緩衝帯の整備実績と維持管理状況を踏まえ、現状の課題を記入する

⑥追い上げ・追払い活動の取組実績と課題
宮本地区では、地区内の町が連携して、毎日の追い払いや捕獲活動が非農家も参加して活発に実施されており、引き続き、維持・発展していくよう支援していく必要がある。

⑦放任果樹の除去の実施と課題

⑧被害防止技術・知識の普及活動実績と課題
積極的な活動が行われている宮本地区や横輪地区では、獣害対策の勉強会や他市町の優良事例を学ぶための視察等が実施されており、その他の被害地区でも、これらの取組を推進していく必要がある。

⑨集落ぐるみの取組の推進実績と課題	
取組集落数	課題
12	旭町、藤里町、勢田町、前山町、朝熊町、大倉町、佐八町、津村町、上野町、神菌町、矢持町及び二見町地区で防護柵の組織的な管理や地域ぐるみで住民主体の追い払い活動や捕獲が行われている。 地区ごとの捕獲従事者の確保や、定期的に技術の継承を行っていくことが大切である。

※ 取組集落の一覧がわかる資料(任意様式)を添付する

⑩-1 ニホンザルの遊動域調査 (単位:群)			
電波発信機装着数	令和1年度	令和2年度	令和3年度
	2	2	2

※ 直近3か年に実施したニホンザルの遊動域調査について記入する

⑩-2 群の情報(令和3年度)	
群名	推定生息頭数
伊勢A群	100
伊勢B群	50

※ 被害防止計画策定時点で把握している群の情報を記入する(推定生息頭数が不明の群れを含む)

⑪ その他被害防止対策の活動実績と課題

(5) 今後の取組方針

今後取り組む被害防止対策								
種類	対策の有無	優先順位	種類	対策の有無	優先順位	種類	対策の有無	優先順位
捕獲体制の整備	○	1	捕獲機材の導入	○	4	侵入防止柵の設置	○	6
緩衝帯の設置			追い上げ(追い払い)活動	○	1	放任果樹の除去		
被害防止技術・知識の普及	○	4	集落ぐるみの取組の推進	○	1	ニホンザルの遊動域調査	○	7
その他( )								

※ 対策の有無欄には、(3)で掲げる目標を達成するために必要な被害防止対策について、取り組む場合は「○」を記入する(ICT(情報通信技術)機器やGIS(地理情報システム)の活用等、対策の推進に資する技術の活用方針を含む)

※ 優先順位欄には、上記取組内容の優先順位(1, 2, 3...)を記入する

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項

(1) 対象鳥獣の捕獲体制 (令和 4 年度)

捕獲者		取組内容と役割	
実施隊 (対象鳥獣 捕獲員)	市町職員		
	民間隊員		
民間団体	猟友会	委託の有無	有害捕獲
		○	
民間団体		委託の有無	
その他		委託の有無	

※ 鳥獣被害対策実施隊のうち対象鳥獣捕獲員の指名又は任命、狩猟者等の外部団体への委託、わなの見回り補助等による捕獲者のサポート等による対象鳥獣の捕獲体制を記入するとともに、捕獲に関わる者それぞれの取組内容や役割について記入する

※ 実施隊については、実施隊が対象鳥獣捕獲員となっている場合のみ記入する

※ 捕獲等を推進する上で、被害防止計画に基づく対象鳥獣の捕獲等に従事している者にライフル銃を所持させる必要がある場合には、そのことについて記入する。

※ 猟友会や民間団体等に委託契約をしている場合は、委託の有無欄に「○」を記入する

(2) その他捕獲体制に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
令和5年度	ニホンジカ イノシシ ニホンザル アライグマ ハクビシン	捕獲檻の整備
令和6年度	ニホンジカ イノシシ ニホンザル アライグマ ハクビシン	捕獲檻については、地元の要望に応じてその都度検討する。
令和7年度	ニホンジカ イノシシ ニホンザル アライグマ ハクビシン	捕獲檻については、地元の要望に応じてその都度検討する。

※ 捕獲機材導入、捕獲体制整備、及び鳥獣を捕獲する担い手の育成・確保について年度別の取組内容を記入する

※ 捕獲機材を導入する場合は、捕獲機材導入の計画(様式第1号別添2)を添付すること

※ 捕獲体制整備を行う場合は、捕獲体制整備計画(様式第1号別添3)を添付すること

(3) 対象鳥獣の捕獲計画

① 他計画の策定状況

名称	策定の有無	策定年月日	対象鳥獣
地域実施計画		令和 年 月 日	
特定外来生物防除実施計画		令和 年 月 日	
捕獲促進プラン		令和 年 月 日	

※ 各種計画が策定されている場合は、策定の有無欄に「○」を記入のうえ、計画策定年月日を記入する

※ 対象鳥獣欄は、特定外来生物防除実施計画と捕獲促進プランのみ記入する

②捕獲計画数の設定の考え方

これまでの捕獲数や、近年の豚熱によるイノシシの捕獲頭数の減少を加味して設定を行った。今後も被害を減少させたいため、現状維持以上で捕獲を計画する。

※ 捕獲実績や集落代表者アンケート結果のほか、第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル)を踏まえ、今後3カ年にわたる対象鳥獣の捕獲計画数設定の考え方を記入する

③対象鳥獣の捕獲計画(単位:頭)

対象鳥獣	捕獲計画		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ニホンジカ	450	450	450
イノシシ	350	400	450
ニホンザル	60	60	60
アライグマ	必要頭数	必要頭数	必要頭数
ハクビシン	必要頭数	必要頭数	必要頭数

※ 捕獲実績と集落代表者アンケート結果を踏まえ、対象鳥獣の有害捕獲許可に係る捕獲計画数を記入する

対象鳥獣	地域実施計画に基づく捕獲計画		
	令和 年度	令和 年度	令和 年度
ニホンザル			

※ 地域実施計画(ニホンザル)が策定している、または策定する予定がある場合、捕獲計画数を記入する

④直近3カ年の捕獲実績(単位:頭)

対象鳥獣の捕獲頭数		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		計画	実績	計画	実績	計画	実績
ニホンジカ	有害	400	363	400	362	400	418
	狩猟		159		213		157
イノシシ	有害	400	563	500	466	500	304
	狩猟		250		133		38
ニホンザル	有害	50	70	60	37	60	26
	個体数調整 狩猟	—	—	—	—	—	—
アライグマ	有害	必要頭数	15	必要頭数	16	必要頭数	20
	狩猟	—	—	—	—	—	—
ハクビシン	有害	必要頭数	14	必要頭数	15	必要頭数	44
	狩猟	—	—	—	—	—	—
合計	有害	850	1025	960	896	960	812
	狩猟	—	409	—	346	—	195
有害捕獲達成率(%)	ニホンジカ	90.8%		90.5%		104.5%	
	イノシシ	140.8%		93.2%		60.8%	
	ニホンザル	140.0%		61.7%		43.3%	

※ 1.の対象鳥獣について過去3カ年の捕獲実績(有害と狩猟)を記入する

※ 狩猟頭数については、獣害対策カルテを参照すること

※ 有害捕獲達成率(実績合計/計画合計)は、有害捕獲について獣種別に記入し、数値は小数点第1位止め(小数点第2位を四捨五入)とする



⑤捕獲等の取組内容	
捕獲重点エリア	宮本地区、沼木地区
捕獲予定時期	令和5年度～令和7年度
捕獲の取組内容	市町捕獲隊、集落捕獲隊、猟友会により捕獲を行う。

- ※ 直近3カ年の捕獲実績や生息状況、集落代表者アンケート結果による被害状況等を鑑み、捕獲重点エリアを設定し、地区名を記入する
- ※ 捕獲促進プランを策定している市町は、同上の記述の代わりに捕獲促進プランの添付に代えることができる
- ※ 捕獲重点エリアがわかる図面(市町版獣害情報マップ)を添付すること

⑥ライフル銃による捕獲等を実施する必要性及びその取組内容			
必要性		捕獲手段	
捕獲予定時期		捕獲予定場所	

- ※ 被害防止計画に基づく対象鳥獣の捕獲等に従事している者にライフル銃を所持させて捕獲等を行う場合には、その必要性及び被害防止計画に基づく対象鳥獣の捕獲等に従事している者による捕獲手段、捕獲の実施予定時期、捕獲予定場所等について記入する

#### (4)許可権限委譲事項

対象地域	対象鳥獣

- ※ 県知事から市町長に対する有害鳥獣捕獲等の許可権限の委譲を希望する場合は、捕獲許可権限の委譲を希望する対象鳥獣の種類を記入する(鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律(平成19年法律第134号第4条第3項))
- ※ 三重県有害鳥獣捕獲許可事務取扱要領第3条(1)に記載されている鳥獣については記入しない

#### 4. 防護柵の設置等に関する事項

##### (1) 侵入防止柵の整備計画

対象鳥獣	整備計画		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ニホンジカ・イノシシ	—	要望に応じ必要であれば実施する。	要望に応じ必要であれば実施する。
ニホンザル	—	要望に応じ必要であれば実施する。	要望に応じ必要であれば実施する。

※ 設置する柵の種類、設置規模等を記入する

※ 位置図と侵入防止柵整備計画(様式1号別添4)を添付すること

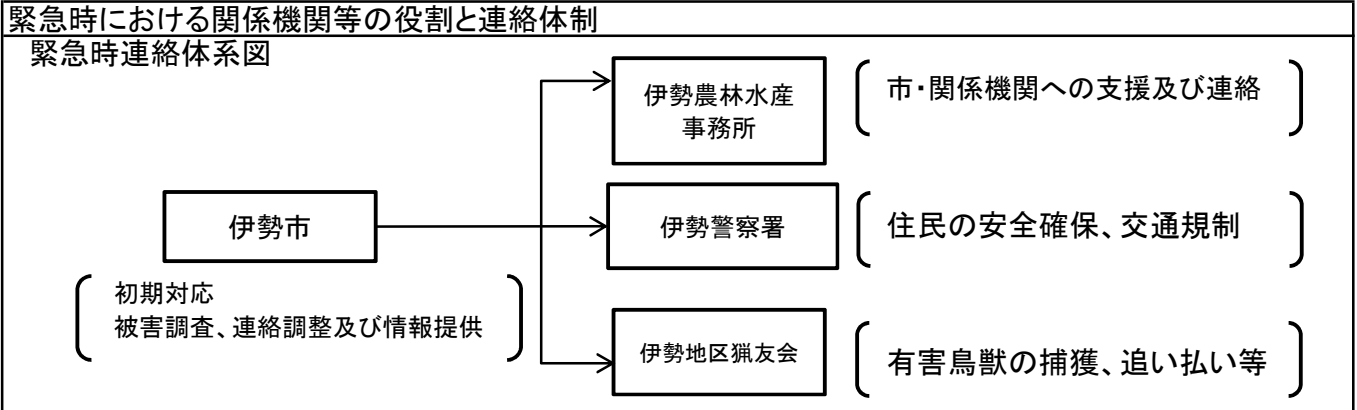
##### (2) その他被害防止に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
令和5年度	ニホンジカ イノシシ ニホンザル	侵入防止柵については、既存の設置箇所の適正な管理を行っていく。 追い上げ、追払い活動については、引き続き支援を行う。
令和6年度	ニホンジカ イノシシ ニホンザル	侵入防止柵については、既存の設置箇所の適正な管理を行っていく。 追い上げ、追払い活動については、引き続き支援を行う。
令和7年度	ニホンジカ イノシシ ニホンザル	侵入防止柵については、既存の設置箇所の適正な管理を行っていく。 追い上げ、追払い活動については、引き続き支援を行う。

※ 侵入防止柵の管理、緩衝帯の設置、里地里山の整備、追い上げ・追払い活動、放任果樹の除去、被害防止に関する知識の普及等について記入する

※ 緩衝帯の設置を計画する場合は、位置図と緩衝帯設置計画(様式第1号別添5)を添付する

5. 対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処に関する事項



- ※ 緊急時の各関係機関等の連絡体制及び連絡方法等のフロー図を記入する
- ※ 関係機関等には、市町、県、警察、鳥獣被害対策実施隊、猟友会等の名称と連絡先を記入する
- ※ 役割欄には、緊急時において、各関係機関等が果たすべき役割を記入する
- ※ 対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処について、規程等を作成している場合は添付する

6. 被害防止対策の実施体制に関する事項

(1) 協議会に関する事項

協議会の名称	伊勢市鳥獣被害防止対策協議会	設置年月日	平成20年11月11日設置
構成機関の名称	役割		
会長	伊勢市農業委員会		
副会長	伊勢地区猟友会(会長)		
監事	伊勢農業協同組合		
監事	いせしま森林組合		
書記	三重県農業共済組合事業部伊勢地域支所		
事務局	伊勢市産業観光部農林水産課		

- ※ 関係機関等で構成する協議会を設置している場合は、その名称を記入するとともに、構成機関欄には、当該協議会を構成する関係機関等の名称を記入する
- ※ 役割欄には、各構成機関等が果たすべき役割を記入する

(2) 関係機関に関する事項(協議会の構成機関以外)

構成機関の名称	役割

- ※ 関係機関欄には、協議会の構成機関以外の関係機関(NPO、研究機関など)の名称を記入する
- ※ 役割欄には、各関係機関が果たすべき役割を記入する
- ※ 協議会及びその他の関係機関からなる連携体制がわかる体制図があれば添付する

(3)鳥獣被害対策実施隊に関する事項 (令和 4 年度)

設置年月日	平成24年1月12日設置					
対象鳥獣	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル					
構成員	隊員数	うち狩猟免許取得者数			うち猟友会員	備考
		銃猟免許	罾猟免許	網猟免許		
市町職員	6	0	2	0		
民間隊員	0	0	0	0		
計						
うち対象鳥獣捕獲員						
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲活動 <input checked="" type="checkbox"/> 追い払い <input type="checkbox"/> 侵入防止柵の設置 <input type="checkbox"/> 衝帯の設置 <input type="checkbox"/> 任果樹・農作物残渣の除去 <input checked="" type="checkbox"/> 生息調査・被害調査 <input checked="" type="checkbox"/> 技術指導 <input checked="" type="checkbox"/> 報・啓発 <input type="checkbox"/> その他( )					
活動方針	<input type="checkbox"/> 捕獲活動 <input type="checkbox"/> 追い払い <input type="checkbox"/> 侵入防止柵の設置 <input type="checkbox"/> 衝帯の設置 <input type="checkbox"/> 任果樹・農作物残渣の除去 <input type="checkbox"/> 生息調査・被害調査 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 報・啓発 <input type="checkbox"/> その他( )					

- ※ 鳥獣被害対策実施隊の設置年月日、対象鳥獣、構成員別の隊員数、うち狩猟免許取得者数、うち猟友会員数、及び対象鳥獣捕獲員数について記入するとともに、活動内容についてすべてチェック(☑)する
- ※ 活動方針欄には、現在は実施していないが、今後、実施隊の活動として行っていきたい活動内容についてすべてチェック(☑)する(現在行っている活動はチェックしない)
- ※ 捕獲活動とは、対象鳥獣捕獲隊員に指名または任命された実施隊員の捕獲活動のことをいう

(4)その他被害防止施策の実施体制に関する事項

- ※ 将来的な被害防止対策の実施体制の維持・強化の方針その他被害防止施策の実施体制に関する事項(地域の被害対策を企画・立案する者の育成・確保や現場で対策を実施する者の知識・技術の向上等の被害対策に関する人材育成の取組を含む)について記入する

7. 捕獲等をした対象鳥獣の処理に関する事項

処理方法	<input checked="" type="checkbox"/> 埋設処理 <input type="checkbox"/> 焼却処理 <input type="checkbox"/> 学術研究利用 <input type="checkbox"/> 利活用(ジビエ等) <input type="checkbox"/> その他( )				
焼却等施設の状況	施設名	所在地	処理能力(L/日)		
食品衛生に係る安全性確保の取組(利活用のみ)	施設名	所在地	食品衛生法準拠の有無		
処理加工施設の整備計画	計画の有無	施設の種類	整備予定年度	令和	年度
課題					

- ※ 処理方法は、該当する処理方法すべてにチェック(☑)する
- ※ 利活用(ジビエ等)について、捕獲者個人が処理施設以外で解体処理を行い食肉として利用する場合は、利活用に含まない
- ※ 食品衛生に係る安全性確保の取組欄には、ジビエとして利活用する場合、処理加工施設の食品衛生法準拠している場合は、有無欄に「○」を記入する
- ※ 捕獲等をした鳥獣の処理加工施設等の整備計画がある場合は「○」を記入するとともに、施設の種類(焼却施設、食肉等加工施設、減量化施設、その他)、整備予定年度を記入する
- ※ 処理に関して課題がある場合は記入する

## 8. 捕獲等をした対象鳥獣の食品・ペットフード・皮革としての利用等その有効な利用に関する事項

### (1) 捕獲等をした鳥獣の利用方法

食品	
ペットフード	
皮革	
その他(油脂、骨製品、角製品、動物園等でのと体給餌、学術研究等)	

※ 利用方法ごとに、現状及び目標を記入する

### (2) 処理加工施設の取組

--

※ 処理加工施設を整備する場合は、年間処理計画頭数、運営体制、食品等としての安全性の確保に関する取組等について記入する

### (3) 捕獲等をした対象鳥獣の有効利用のための人材育成の取組

--

※ 処理加工に携わる者の資質の向上や、捕獲から搬入までの衛生管理の知識を有する者の育成の取組等について記入する

## 9. その他被害防止施策の実施に関し必要な事項

--

※ 近隣市町と連携した広域的な被害防止対策その他被害防止施策の実施に関し必要な事項について記入する